

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070600517
法人名	社会福祉法人 年長者の里
事業所名	グループホーム八幡
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区大蔵3丁目2-1 (電話) 093-652-6800

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	10月11日

青報提供票より(平成19年8月1日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 4階建ての3階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000円	その他の経費(月額)	共同使用部分の光熱水費15,000円	
敷金	有(400,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:10年)	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
または1日当たり 1,500円				

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	15 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名	
要介護3	9 名	要介護4	5 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 84.8 歳	最低	69 歳	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄八幡記念病院 / 藤崎歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合的な高齢者福祉施設と診療所が併設した一角の4階建ての建物の3階にグループホームがあり、広い窓からは山々が望め、他の施設の職員や利用者の動きが見える開放的な施設である。玄関には、よく手入れをされた花を飾ってある。2ユニットの境目がなく入居者は広い空間の中で、ゆったりと過ごすことができ、担当職員となじみの関係ができています。102歳の入居者がしっかり足をあげて、歩行器使いながらもトイレに行かれる。日々の生活の中に、機能訓練が活かされている。職員が程よい距離を置きながらも、目配りなど支援をされている。総合的な高齢者福祉施設のスケール・メリットを活かし、最新の知識・技術を取り入れた家庭的な雰囲気のあるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族・運営推進会議の委員へ、自己評価・外部評価を公表している。また、ホームの入り口に自己評価・外部評価をおき、訪問者が自由に閲覧できるようにしており、評価の改善点の取り組みなども、今後は公表していきたいと考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点であった項目では、玄関周りに草花を置き、訪問者が和まれるように改善している。また、各自の居室の表札は入居者と家族に制作してもらい、個性的な表札ができています。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	議題として自己評価・外部評価を提出する時は、当職員の介護の考え方をアピールできるチャンスととらえ、運営推進会議において評価内容を検討している。また、ホーム内の日常生活などを報告し、意見をいただいている。運営推進会議は、委員の皆さんより率直な質問や意見を頂く機会としてとらえ、様々な意見を職員会議で全職員に報告するなど、運営推進会議の意見を反映する様に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月初めに、入居者状況を報告する手紙を家族に送付している。ホームでの暮らしがわかりがわかと好評である。ホーム入口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員会に伝わる仕組みになっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区のふれあい昼食会へ参加している。保育所の園児達とのふれあいを大切に考え、行事ごとに企画し実行している。また、小学校の運動会や地元の祭りである起業祭に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本としながら自分たちの言葉で、日々の介護となる理念をつくり上げている。		平成18年の法改正に伴い、地域密着型サービスとして、地域との交流など、地域との関係を築く理念が求められ、地域において、どのような役割を果たしていくのか、サービスのあり方を具体的に表す理念の内容が求められる。現在の理念に地域との関係を加えることによって、地域密着型サービスの理解を高めることができると考えられる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目につきやすい場所に理念を掲示している。会議・研修ごとに理念を唱和し、職員全員の共有意識のもとで、日々の介護に活かそうと努力されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のふれあい昼食会へ参加している。保育所の園児達とのふれあいを行事ごとに企画し実行している。また、小学校の運動会・起業祭に参加している。活動の状況は3ヶ月ごとに発行する「年長者の里だより」で地域へ情報を発信している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族・運営推進会議の委員に、自己評価・外部評価を公表している。また、グループホームの入り口に自己評価・外部評価をおき、訪問者が自由に閲覧できるようにしている。		サービス評価の意義や目的を理解し、評価結果をふまえて、見いだされた課題について計画的に改善することで、日々の介護の現場に役立つと思われ、今後は改善点の取り組みなども公表していきたいと考えている。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度開催している。施設内の行事や入居者の日常生活について報告すると共に、外部評価の内容などを公表し、意見交換を行っている。また、職員の研修内容なども報告している。		全職員に運営推進会議で出された意見を報告し、職員会議の中で話し合っているが、前回の運営推進会議で取り上げられた項目や懸案事項について、積み上げていくことで課題解決に繋がると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターに入居者と共に出向いたり、市民センターの行事にも参加している。グループホーム便りを入居者と共に届けている。		グループホームを行政の研修の場に提供したり、地域包括支援センターの保健師に認知症の研修を協力依頼するなど、運営推進会議以外で連携を高め、情報交換などを積極的に行い、グループホームの問題や課題を行政側に伝えることが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、活用されている入居者はおられないが、管理者が年1回研修を受け、それを全職員に伝達している。更なる研修の充実を図りたいと考えている。		高齢者や認知症の方々の生き続けるための人権としての権利擁護に取り組み、ホーム全体で研修を実施したり、外部研修に参加するなど研鑽に努めて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに、入居者の健康状態やホームでの様子を報告する手紙(年長者の里)を家族に送付している。また金銭出納帳も月に一度、家族の方々に確認していただいている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員会に伝わる仕組みになっている。また、苦情や意見を直接職員に話せる雰囲気づくりを大切にしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は、1ヶ月程の職員の調整期間を設け、少しずつ、なじまれる期間を置くようにしている。また、認知症の症状に応じて対応できる人事体制を構築している。入居者・ご家族には離職や異動がある場合には事前に報告・説明している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	資格はヘルパー2級以上を必須としている。性別・年齢は問わず、笑顔・優しさや気遣い・思いやりを大事にし、入居者が安心して暮らしていただけるような方を採用するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	採用時に幹部職員によるオリエンテーションを行い、人権に対する意識を高める機会をつくっている。		外部研修に積極的に参加したり、新聞・ニュースなどでの人権擁護に関する事例を参考にしながら、研修会や勉強会を開催するなど、さらに人権に関する理解を高めることが求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修を全職員には告知していないが、法人で内部研修を開催する際には、全職員が参加できるようにしている。今後は外部研修にも積極的に参加する方向で考えている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者の訪問、問い合わせはあるが、職員が他の施設を訪問したり、交流などは殆んど行われてない。		サービスの質の向上のために、他のグループホームや施設などとの交流を図り、外部のネットワークの構築を高めていくことが求められる。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者に当たっては、何回も訪問・見学をしていただき、なじみの関係ができるように支援している。時期を見極めて入居の手続きをするようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々は人生の大先輩であり、学ぶことが多い。言葉の使い方など注意されることもある。職員は、反省と学習ととらえ、学びの糧としている。暮らしの中では、入居者の能力を活かした食事の準備など職員と共に、介護される一方におかないように努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活パターンでふとした瞬間に笑顔をみせられる場面がある。そのような場面を記録に残し、職員が共有できるようにしている。入居者と職員常に1対1で話されている。各居室は個性あり、長年使われたであろう筆筒や仏壇等が置いてあり、入居者一人ひとりを大切にされている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を開催し、本人・家族の希望を聞いて作成している。また、日頃の生活行動パターンや会話からも、希望や要望を引き出し介護計画に反映させている。</p>		<p>その人らしく暮らし続けるための個別介護計画は、身体的情報はもとより、生育歴や生活史、その人の時代背景を把握することが重要である。今後は、生育歴や生活史など、更に深く掘り下げられることが望まれる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月ごとにプランの更新・変更が行われ、些細な行動の変化も詳しく記録されている。またサービス担当者会議で家族も含めて、気づきや思いを意見交換しながら、次へのケアプランへ繋げている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設であるため、ホームの職員で対応できにくい時は他施設の助言をもらっている。デイサービスのレクレーションも利用している。また、月に2～3回の外出や希望の美容院や散髪屋など意向にそった外出支援が行われている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者のほとんどが入居前から同建物の1階にあるクリニックに受診している。なじみの関係になっている方が多い。入居者及び家族が希望する場合は、1階にあるクリニックの医師に紹介状を書いてもらい、他の医療機関に受診できるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	家族と医師・職員で、重度化や終末期にグループホームでどこまで介護できるかを話し合っている。今後は、医療との連携や方針について考えるようにしている。		今後は、医療機関など関係者との話し合いのもと、重度化・看取りについてのマニュアルや書類などの整備が求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員全員がマナーアップ研修を受講している。管理者は会議などで、職員の言動に注意している。個人情報保護については法人の規定にそって実践されている。入居者の誇りやプライバシーを大切に声かけや記録の保護に配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者のペースに合わせて柔軟に対応している。職員の勤務時間は、入居者の食事時間や入浴時間に合わせて決められている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	配膳・片付け・皿洗いは職員と入居者が一緒に行う。台拭き・盆拭きは入居者が役割を担っている。マイコップを使い、いつもの席で、それぞれが食事をされている。お菓子を作る機会を設け、楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回から週5回としている。入浴時間帯は9:00から19:00に設定している。夏場は遅く入る人がいるので、20:00までとしている。好きな時間に入浴できるように配慮されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	外出や外食を希望される方が多い。日常的には、ドライブや散歩・買い物に出かけている。ピアノが得意な方には、他施設に演奏に行くなど、喜びや楽しみを持っていただくように支援している。		更に暮らしの楽しみや喜ばれることを支援されることが求められ、家族から情報から引き出したり、入居者の生活歴や日常の些細な会話から見出すことも必要に思われる。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	外出を希望されると、ドライブや散歩に出かける。雨の日は館内を散歩している。公用で市役所・区役所出掛ける時も職員が同行している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関の鍵は昼間は掛けていない。夜間のみ防犯の為20:00～6:00まで施錠している。ベランダ側のドアもほとんど開放している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防災意識は常に持っている。消防訓練は年に3回行っている。地域との合同の消化訓練はしていない。		災害時は地域との協力が不可欠であり、地域と合同の訓練が必要である。また、3階という状況での避難経路を常に意識しておくことが求められ、運営推進会議での議題に取り上げるなど、地域の方々の協力をお願いできる機会を活かし、緊急時の地域との体制を構築されることが望まれる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	入居者一人ひとりの摂取カロリー・水分摂取量は、一日全体を通して把握し、毎日記録している。夏場の水分補給には、特に注意を払い、飲み物だけではなく、ゼリーにしたり、飽きの来ない工夫もなされている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	造花ではなく、植木鉢の花が生き活きとして、きれいに手入れされている。入居者の居室の表札も家族や本人の想いでつくられたものであり、行事ごとの写真が飾られている。窓も広く自然な採光が工夫され、穏やかな雰囲気づくりがなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には個性があり、昔から暮らしの中で使い続けてこられた箆笥や仏壇などが置かれており、入居者のなじみの物に囲まれた暮らしを支援し、その人らしい暮らしと居心地が良い環境づくりに配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			